

令和7年度 大田区立大森第二中学校 自己評価 報告書

令和8年3月4日

○ 本校の概要

今年度の生徒数は439名(5月1日現在)であり、1学年4学級、2学年5学級、3学年4学級の13学級において、日々活発な教育活動が展開されている。教員(本務者)は27名だが、そのうち採用から3年未満、または本校が初任である若手教員が9名と全体の3分の1を占めており、活気あふれる指導が行われている。本校は、令和3年度よりコミュニティスクール制度を運用していることから、学校のさまざまな運営について学校運営協議会委員の意見やアドバイスをうかがいながら進めていく形をとっており、地域と連携・協働して子どもたちを育てていく仕組みづくりができています。また、本校では近隣小学校3校との学校間交流を協力して進めており、「授業研究」「わくわく体験」「体験授業」「生徒会による学校紹介」「小中合同ボランティア活動」等の行事に取り組むことで小中の円滑な連携が図れている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価	人数	コメント		
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来社 会を 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートにおける設問「私は、授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4: 70%以上	①今年度は、STEAM教育を本校教育の核として位置づけ、数学・理科のみならず、各教科を通して横断的な取り組みを行った。生徒アンケートでは、意欲的に取り組む生徒が33%から38%へとわずかながら増加しており、生徒の主体性が少しずつはあがり、上昇傾向にあることがうかがわれる。生徒が意欲的に取り組めるような授業(具体的には、理・数科の楽しさを感じられるような授業内容)へのさらなる改善を図っていく。	A	3	・円グラフを見る限り、半分以上の生徒が自分の意見を言えていないのは気になる。周囲に遠慮してしまっているのだろうか。聞かれれば発言できる生徒もいると思うので、教員側から意見を聞いていくことも大事ではないか。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 60%以上					②本校は、部活動が盛んであり、また、さまざまなボランティア活動に参加するなど、学校内にとどまらず、学校外で体験的な活動に主体的に関わるような生徒が多い。そのような活動の中で、自ら判断する力や協働の力が養われているものと思われる。今後も、これまで同様生徒が様々な活動に参加していく機会を作っていく。	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 50%以上						③授業でICTの活用を推進しているが、昨年度同様、授業の中で生徒が常時使用するまでは至っていない。ICTを活用する授業を増やし、生徒の情報活用能力の育成を図っていく。また、数を増やすだけでなく、生徒が主体的にICTを活用していくような授業の改善を行う。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 50%未満						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	※生徒アンケート N=441 n=378										
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
お世個 お別 れたと 目をつ 標担な 2うが る材 国を際 育都 成市 し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートにおける設問「私は、英語で自分の意見を発表するなど、英語に意欲的に取り組んでいる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4: 70%以上	①外国語教育においては、ALTが増員となり、週5日常駐していることから、昨年度以上にコミュニケーション活動の充実が図られた。生徒らは、培った英語力やコミュニケーション力を、区のスピーチ大会などで十分に発揮している。来年度は、修学旅行や社会科見学の中で実際に身に付けた英語力を使う場の設定ができることとよい。	A	4	・せっかく外国籍の方が多い社会の中で生活しているのだから、この地域ならではの身近な授業(いろいろな国の方々との交流など)ができれば授業もより楽しく進められるのではないかと。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 60%以上					②昨年度に引き続き、大田区内の企業関係者を招聘し、特色等を踏まえて持続可能な社会に向けた取組を考え、英語で自分の意見を発表するなど、英語に意欲的に取り組んでいる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 50%以上						③各教科において、SDGSの視点から授業を適宜行っている。明確な課題を設定して学校全体としての取り組みを行うまでは至っていないので、次年度は計画的に指導を行っていく。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 50%未満						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。										
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
た一個 め人 目の 基と標 礎り3 とが な個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	生徒アンケートにおける設問「私は、体力向上や健康増進のために、規則正しい運動や食生活に取り組んでいる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4: 70%以上	①道徳科を中心に、継続的な道徳教育を実施し、1月にはその集大成として道徳授業地区公開講座を行い成功させた。おおむね目標は達成しているため、今後も取組を継続していく。	A	7	・個性というが、二中の力は合唱の力「団結力」なのではないか。結果も大事だが、プロセスはもっと大切である。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 60%以上					②数学と英語において、習熟度別の授業を行っている。また、各種検定の受験率は非常に高く、多くの生徒が前向きに検定に取り組んでいる様子が見えてくる。今後も取組を継続し、生徒一人ひとりの学力の向上を図っていく。	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 50%以上						③体育の授業や給食の時間のみならず、学校での教育活動における様々な場面で、健康教育や食育の推進に努めている。生徒の体力のさらなる向上に向けて引き続き取り組みを継続していく。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 50%未満						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	④体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。										
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
た一個 め人 目の 基と標 礎り3 とが な個 性力 と能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのことに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	生徒アンケートにおける設問「私は、体力向上や健康増進のために、規則正しい運動や食生活に取り組んでいる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4: 70%以上	①道徳科を中心に、継続的な道徳教育を実施し、1月にはその集大成として道徳授業地区公開講座を行い成功させた。おおむね目標は達成しているため、今後も取組を継続していく。	B	2	・生徒は、SMSやネットの普及で、学校以外からさまざまな情報が得られるので、それらを学校生活の中でも活用し、どのような効果があるかを検証し、自分に良いことはどんどん取り込んでいると思う。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 60%以上					③体育の授業や給食の時間のみならず、学校での教育活動における様々な場面で、健康教育や食育の推進に努めている。生徒の体力のさらなる向上に向けて引き続き取り組みを継続していく。	
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 50%以上						④小中一貫の会などの機会をとおり、学区内小学校との連携は十分図れている。小中一貫教育のテーマは毎年決まっているので、そこに健康や食育を加えながら行っていく。
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 50%未満						
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。										
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。												
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	生徒アンケートにおける設問「先生は、わかりやすく工夫した授業を行っている」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4:70%以上	①校内研修を年間3回行い、外部から講師を招聘し、指導をいただいている。今年度はSTEAM教育をテーマとし、全教員が個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて授業改善に取り組んでいる。 ②職業体験では、今年度も地域の事業所の多くで生徒を受け入れていただくことができた。また、地域の企業から講師を招いて特別授業を行うことができた。地域の特色を生かした教育活動を行うことができているので、今後も継続して行っていく。 ③各種会議におけるペーパーレス化、新動意システム導入による印鑑レス化などをとおして、業務の適正化を図っている。これによって、より充実した生徒指導が可能となっている。小中一貫教育のテーマともなった生徒のウェルビーイングを高める取組みを、計画立てながら行っていく。	A	5	・教員の負担を少なくすること、魅力的な職場づくりに期待する。 ・生徒と保護者の「わからない」と「そう思う」の割合が大幅に違うので、差が少なくなるよう学校側からアプローチしてもいいのではないかと、(難しいことだが)言葉だけでなく、目でも見られるというところが分かりやすいと思う。 ・学びのスタイルも日進月歩で変化している中で、先生方の努力のおかげで子ども達も良い学びができている。	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			4		3:60%以上	B		3
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			3		2:50%以上	C		0
								1:50%未満	D		1
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートにおける設問「学校は、社会の決まりや学校のルールを守らせるよう指導している」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4:70%以上	①本校は特別支援教室の拠点校でもあることから、巡回指導教員を中心に、特別支援教育の体制の充実が図られている。今年度も特別支援教室を利用する生徒が少なく、その点からもインクルーシブ教育が実現されていることがうかがわれる。通常の学級の特別支援教育の充実をよりいっそう推進していく。 ②生徒に対し、「いじめは絶対にゆるさない」ということを、様々な機会に伝えている。その成果もあり、年間のいじめ件数は少ない。毎週、生活指導部会を行い、生徒情報を交換し合うことで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めている。 ③スクールカウンセラーが週3日来校し、生徒はもとより保護者の面談も行っている。月に1度の相談室だよりを発行し、相談室の存在を生徒たちに積極的に発信している。SSWとの連携を図り、主に不登校生徒の支援をしている。	A	5	・やはり、部活動は貴重なものと思う。 ・先生方は、授業の時以外でも、子ども達と学びを視野に入れた関わりをしていると感じる。 ・合唱コンクールなどを合わせて行う行事や、道徳の授業などを通して、生徒には考える力や思いやる心が育まれていると感じる。また、保護者にとっても、行事は成長を感じる貴重な場である。 ・幼少からの関連もあるかと思うが、引き続き取り組んでいってほしい。	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			4		3:60%以上	B		4
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			4		2:50%以上	C		0
								1:50%未満	D		0
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 的 境 な を 学 つ 習 く 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートにおける設問「学校は、緊急時には必要な情報を正しく知らせられる」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4:70%以上	①昨年度同様、地域の方がボランティアとして参加して下さる授業を一部の教科で行っている。そのような教科をさらに増やし、学校と地域が一体となりより充実した学習環境の整備に努めていく。 ②避難訓練を毎月行っている。また、安全指導日を、定期的に設けている。これらにより、生徒の安全意識は非常に高まっている。今後は、地域の方々の協力を得ながら、生徒主体の「子ども消防活動」について、具体的な計画を立てていく。	A	6	・よく取り組んでいるので、今後も継続して行っていく。 ・授業の雰囲気は、堅苦しいだけでなく、もう少しリラックスした中で進めているのかと思う。そのメリハリを生徒達も理解していると思う。 ・一部に不満もあるようだが、的外れな意見と思う。	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			4		3:60%以上	B		3
								2:50%以上	C		0
								1:50%未満	D		0
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートにおける設問「学校は、保護者、PTA、地域、関係諸機関と連携し、地域活動に協力して見守ってくれている」に対する肯定的回答「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合。	4:70%以上	①学校公開や地域のボランティア活動への参加などによって、地域コミュニティの核としての役割を十分に果たすことができている。今年度は、部活動や個人での地域活動への参加が増え、さらに連絡・協働が深まった。次年度も継続して行っていく。 ②地域やPTAの協力を得、登下校時の見守り活動が活発に行われている。今後も継続して行っていく。 ③PTAと連携した講演会・学習会の実施にはまだ至っていない。	A	6	・校長がとても人気があるようで感心した。 ・今年度は学校公開が学級閉鎖と重なったので、残念に思う保護者が多かったと思う。ただ、大きな行事では、多くの方が見て来てくれたので、様子を伝えられたのではないかと、また、部活動支援やスクールサポートのボランティアの方々が生徒達と交流することもあるなど、保護者以外の方とのつながりがあることがとてもよいと思う。 ・学校の体制も変り、以前よりも子ども達、そして保護者側に目を向けていることを感謝している。先生方の姿勢、思いが大切だと感じる。CSもしっかり協力し合い、学校と一体となって頑張っていきたい。 ・アンケートをすべて拝見した。さまざまな意見や指摘がある中、調整して生徒たちの学校生活を守っていただいているのはありがたいことである。 ・地域とはよく連携が取れていると思う。	
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			4		3:60%以上	B		2
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1		2:50%以上	C		1
								1:50%未満	D		0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す